

保護者等からの事業所評価の集計結果								
公表								
事業所名	てらぴあぽけっと馬橋駅前教室							
公表日	2026年 1月 20日							
利用児童数	2025年 12月 10日		回収数 28					
		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	28					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	27		1		運営時間に対して職員が少ないため、休めているのか心配。	配置が少ないので無いため、職員の顔から疲れを感じないように環境管理をおこなう。
	3	生活空間は、ごどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	28					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、ごども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	28					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	28				満足はしているが、子どもに対する声掛けで驚いたことがあった。	子どもに対する適切な声掛けをカンファレンスなどで振り返る時間をつくる。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	28					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	28					
	8	児童発達支援計画には、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	28					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	28					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	28					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	19		5	3		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	28					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	28					
	14	事業所では、家庭に対して家族支援プログラム(ペアレンツ・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	24		3	1	SNSも良いが実地体験で療育を学びたい。	子サボなどを積極的に使い、保護者様に直接療育を学んでもらう場を設ける。
	15	白話からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができると思いますか。	28					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	28					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	28					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	18	1	5	4	子どもむけのイベントは多いが保護者同士の交流などは少ない。	保護者向けの説明会や相談会を実施していく。
	19	こどもや家庭からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした後に迅速かつ適切に対応されていますか。	28					
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	28					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	28					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されているだと思いますか。	28					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	25	1	1	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	24	1		3		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	27			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がなされていると思いますか。	25	1		2		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	28					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	28					
	29	事業所の支援に満足していますか。	28				専門士の職員に見えてもらえる機会がもう少し欲しい。	他施設と協力し専門職員と関わる機会を増やす。

事業所における自己評価結果						
公表		2026年1月20日				
事業所名		てらぴあぽけっと馬橋駅前教室				
チェック項目		はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		4		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		4		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		3	1	空きコマは率先して掃除をする。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		4		個室に過誤などを設置してティッシュなどの小物が散らばらないようにしていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		4		すぐに部屋の入れ替えなどができるようにしてある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		4		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		4		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		4		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		2	2	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		4		てらぼけラボの活用。 パート職員さんも知識を深められるようにてらぼけラボに参加するよう促していく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		4		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。		4		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		4		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		4		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		2	2	定期的に記録の書式に不備がないか管理者が確認。
供	16	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」の「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が		4		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		4		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		4		
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。		4		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		4		
その他	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		4		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。		4		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。		4		

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	1	利用者様の就学先をリスト化。	何か連携が必要なときに瞬時にやり取りができるようにしておく。
	(28~30は、センターのみ回答)		4			
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に貢献する取組等を行っているか。	4			
	29	質の向上を図るために、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	4			
	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。		4			
	(31は、事業所のみ回答)		4			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	1	計画書などを送り合う。	連携しながら子どもたちの療育に活かせるようにプログラムに差が出てないようにしている。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	3	園訪問や電話による連携。	連携したことを書面にまとめて職員間で情報共有。
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	2	ブログ配信など。	LINEやブログを今よりも活用し、保護者様向けのイベントなどを共有していく。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	1		
	36	児童発達支援計画を作成する際に、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしている。	1	3	特になし。	今まででは職員と保護者様のみの面談が多かったため、保護者同士が関わる機会を設ける。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	3		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	1	定期的にマニュアルに基づいたくんれにやカンファレンスをおこなっている。	特になし。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	2		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	1		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	1		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	1		

事業所における自己評価総括表				
公表				

○事業所名	てらびあぽけっと馬橋駅前教室			
○保護者評価実施期間	2025年 7月 1日 ~			2025年 12月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数)	28
○従業者評価実施期間	2025年 7月 1日 ~			2025年 12月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 21日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との距離感。	長く通所していただき信頼感を得られるようにFBや家で出来ることなどを具体的に助言するようしている。	それぞれの職員の強みを活かして、療育内容だけでなく保護者様に寄り添うような話し方や声掛けを意識していく。
2	教室の環境整備。	利用者様にもきれいと思ってもらえるような教室づくりのために棚の整理整頓や職員たちが働きやすいようにファイル棚の整備を心掛けている。	倉庫など見えない部分が整頓されていないため、職員全員で整頓された環境を作っていくよにしていく。
3	子ども向けのイベント営業。	子ども向けのイベントを多く考えるようにし、なおかつ直接FBで営業をかけSP利用を意識した営業をおこなっている。	新しく入職した職員も意識をもって実積率を上げていくように新人教育を行っていく。
	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	
1	保護者向けのイベントや新規に向けた無料イベントなどが少ない。	過去に子ども向け以外のイベントをしたことがないため実行に移せていない。	他施設などで保護者向けのイベントをおこなっている職員から情報を共有してもらう。
2	非常時の対応などの共有ができていない。	職員間でおこなったものをお知らせなどで配信するなどを怠っていた。	ブログやLINEなどをを使って周知するようにしていく。
3	職員がABAになぞらえたプログラム作成や療育に対する知識のレベルが低い。	新しい先生に足しての研修などを丁寧におこなえていなかった。	動画などで学ぶだけでなく、他職員と協力し合って適切な療育の方法を学ぶ必要がある。